

あいさつ

同窓会前会長

梅沢

仁



児玉高校同窓会会長退任にあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

その昔、郷土の先人・先輩の方々及び草創期の歴代の校長先生始め教科の先生方のお骨折に依る母校の建設・開校の偉業を偲び母校の発展の姿を目の当りに見、誠に感無量のものがあります。母校の輝ける歴史と伝統が示す通り、約一万八千有余名の卒業生を送り出し社会の向上発展に寄与して参りました。自由・創造の校風のもと、先生方のご努力、PTA、後援会のご支援、外部より支えた同窓会の力による円滑な相互連携のもと、母校の今日が築かれたの

であります。

そして、そこに「児高らしさ」という独特の校風が育つていくのです。

児高に学ぶ生徒諸君！。恵まれた環境のもとに学校生活を味わい、知育、体育、徳育のバランスのとれた人間形成がなされ、新しい時代が良い時代であるように確固たる信念と自覚の持ち主として行動し、大きく世界に向かって飛び立つてゆかれるよう望みます。

同窓会に於いては、会員の声、母校をより温かく見つめようとする目、希望、願い等をキャッチして、今後の会運営の資料として活かしてほしいと考えます。

思えば、会長をお受けして以来約一〇年が過ぎました。その間、唯一途に母校隆盛のお役に立てればと懸命の仕事をさせていただきました。これも一重に会員皆様の母校愛からほとばしるお力で支えていただきましたお陰と心から感謝し、改めてお礼申し上げます。

そして、会の運営の任に当られた役員の方々には、本当にご苦勞

いただきました。ありがとうございました。これからもますますの御精進をお願い致します。

最後になりましたが、各界で活躍されている卒業生の皆様、役員各位、母校職員の方々の御幸福と御健勝を祈念致しますと同時に児玉高校の前途に輝ける未来がありますよう念じつつお別れの言葉といたします。

かえりみて

前学校長 関 口 善 行

題名は憶えていませんが、

人がその杉の太木の下を通りかかると樹上に何物かがいて、きまつて（おぼさりてー…、おぼさりてー…）という声があるので、急いでその下を走りぬけました。」という昔話がありました。児玉高校は、玄関にも校舎の裏側にもそんな

な太木が何本もそびえていました。桜の頃には花びらで車のフロントガラスが埋まり、晩秋には落ち葉のジュータンを踏んで帰路に着く毎日でした。一七、〇〇〇人を越す同窓生の皆さんは、社会のリーダーとして活躍されており、学校への御助力にも並々ならぬものがありました。

この重厚な歴史をもつ児玉高校に私は、二度勤務する幸運に恵まれました。最初は三十代後半から四十代中頃まで理科の教師として、次は校長として二年、合計一〇年半の間でした。梅沢同窓会会長（前会長）を始めとする同窓会の皆様には、学校への直接の御支援の他に、在職、在学生の心の支えになっていただきました。深く感謝申し上げます。

水田地帯の比較的新しい「深谷高校」（現任校）から児玉高校に思いを馳せるとき、児玉高校で私は育てられたという思いが強く致します。たくましい児玉高校、お世話になった同窓会の皆様の益々の御発展を祈念申し上げます。

母校応援歌

A・B歌の作曲募集

母校応援歌を募集致しましたところ三名の方から投稿いただきました。A・B・C歌のうち、C歌については曲付きでいただきましたので、A・B歌の作曲を募集致したいと思います。

事務局宛ご連絡下さい。

UNISON

Allegro

mf
f
mp
mf
mf
mf
f

1.2.3

mf
f

歌詞:
ヒコ カルダ イラ チ フ ミ シ メ テ テ
ヒコ カバ ル ノ イラ チ フ ミ シ メ テ
ハ ト ル カ イ ミ ラ イ ラ サ グ テ ミ ヨ ウ
ハ ト ル カ イ ミ ラ イ ラ ツ ド ウ キ ジ オ カ ニ
ツ ナ ウ タ メ カ ガ ヤ
ク シ ョ リ ハ タ ヒ ル ガ エ リ ウ タ オ
オ ト モ ニ コ タ マ コ ウ コウ
ヒ カ ル ダ イ チ フ ミ シ メ テ
ハ ル カ ミ ラ イ ラ サ グ テ ミ ヨ ウ

埼玉県立児玉高等学校

応援歌応募作品(卒業生)

作詞 柳 登

応援歌 A

一、冬、烈風の空の下

朝に夕に弛みなく

鍛えし精神

鍛えし肉体

試さん時ぞ今来たる

児玉 児玉 児玉

若鷲の如く

児玉 児玉 児玉

敵うち砕け

二、夏、烈日に汗飛ばし、

母校の誉を高めんと

情熱抱き

研きし手練

天下にしめせ意気揃え

児玉 児玉 児玉

若鷲の如く

児玉 児玉 児玉

闘志を燃やせ

児玉 児玉 児玉

栄光は吾に

児玉 児玉 児玉

凱歌はあがる

勝利の時に

作詞 鈴木 要子

応援歌 B

一、赤城榛名の雄姿を仰ぎ

ロマン育む白い雲

明日の勝利を信じつつ

鍛えよ闘志この身体

共に生きよう青春を

いざ闘わむ

児玉チャチャチャ児玉チャチャチャ

児玉チャ・チャ・チャ

二、春雉岡の桜花

郷土の偉人崇めつつ

夕陽まぶしき校庭に

健児の意気はほとばしる

熱き思いを抱きしめ

いざ闘わむ

児玉チャチャチャ児玉チャチャチャ

児玉チャ・チャ・チャ

三、歴史は古りて七十年

母校の栄誉掲げつつ

燃える血潮をたぎらせて

はばたけ夢よ若人よ

耐えし試練は今ここに

いざ闘わむ

児玉チャチャチャ児玉チャチャチャ

児玉チャ・チャ・チャ

(チャ・チャは手拍子で)

作詞・作曲 田嶋 謙三

応援歌 C

一、光る大地踏み締めて

遙か未来を探ってみよう

我らは集う雉岡に

明日の世界を担うため

輝く勝利旗ひるがえり

謳おう共に児玉高校

二、コバルトの空を仰いで

遠い歴史を見詰めてみよう

我らは想う森影に

明日の世界につなぐため

輝く勝利旗ひるがえり

謳おう共に児玉高校

三、溢れる光りに囲まれて

希望の扉開いてみよう

我らは目指す平和の大地

明日の世界を築くため

輝く勝利旗ひるがえり

謳おう共に児玉高校

(この作品は作曲付)

小林さん

二科展特選受賞

平成6年9月東京都美術館で開催された、第四十二回二科会写真部門展において、高校第十三回卒業生の小林英樹氏(児玉町在住)が特選を受賞しました。

題「ペリカン」





第二十回卒 飯塚範子さん

講演会

平成五年十一月二十五日に「第七回同窓会講演会」が開催されました。

育英委員会では、第二〇回卒業の飯塚範子(旧姓 落合)さんにご講演をお願いいたしました。

飯塚さんは昭和四十三年三月児玉高校を卒業、同年四月に日本大学芸術学部写真学科に入学、四十七年三月同大学を卒業されました。

卒業後は写真館、出版社にてカメラマンとして勤務後、フリーの

スタイリスト、美人独身スタイリスト 落合事務所 落合のり子として現在活躍中です。

飯塚さんは ①高校在学時代、②大学時代、③スタイリストの仕事を通しての三つの柱にそって、熱いメッセージを在校生に伝えてくれました。

以下、その内容の要旨をご紹介します。

①高校在学時代は、卒業後や将来の進路に相当な迷いを抱いていました。父親がこの学校の教師をしていましたし、同級生のなかに同じ状況の友人が二人おりました。その二人の友人は当時から教師をめざしており、現在教師として教育に携わっています。

私は、教師という職業に抵抗を感じていました。それは、父親への反抗の現れで、写真学科を受験へとつながったようです。しかし、写真との出会いは私が幼い頃に父親が写真を趣味としていた事に起因しているといった事実は否定できません。

大学受験の時は「日大の写真学科のみ」と他校への受験は一切考えていませんでした。

②大学入学時は学生運動の渦中でした。入学はしたものの授業は休講となり、大学内では勉強ができませんでした。

写真学科の学生はほとんど男性で、女性が変わった学生と思われるようになりました。女性が少数でしたが、厳しい面も多く「男子と平等として仕事をしたい。」との思いを強く持ちました。

大学在学中に多くの先生、先輩、同級生に、後輩に恵まれ、その人脈は現在の仕事に役立っております。

③スタイリストの仕事を通して感じますことは、私自身カメラマンの経験がありますから、カメラマンの気持ちや理解できるので、撮影の時カメラマンが何を欲しているのか察し、そのところをフォローすることが出来るのです。だから、フリーとなつて競争

が厳しくも仕事を続けられているのです。この業界も分業化が進んでいます。ですから、持ち味のあるスタイリストしか必要とされないようです。現在、自身の持ち味を必要とされる業界がありますが、いつ切られるかわかりません。スタイリストは華やかな職業と思われていますが、時代のニーズやファッション、メイク等の流行や情報について、常に学んでいなければならないようです。やはり、社会は大変厳しいのです。

私は、皆さんへのメッセージとして、人との出会いを大切にすること。社会に眼を向けること。女性が仕事を持つ事の意味とその必然性を考えること。の四つをお伝えたいのです。

輝かしい将来に向けて頑張ってください。楽しみにしています。そして、主婦業こそ、又、大変な職業です。

部活紹介



陸上部

平成五年、六年頃より部員の数が増え始め、現在では五十名近い部員数になっております。数年前のことを考えると夢のようです。その結果、下級生は部室から締め出されている始末です。教室で着替え荷物をグラウンドの隅に置いて

の練習です。何とかしてやらねばと思えますが……これは一陸上部だけの問題ではなく他の部も同様である。

個人競技中心の陸上競技では、少数精鋭という考え方が成り立つと思えますが、多くの部員を抱えた場合、個々の指導の難しさはありますが、練習に活気、遣る気を起こさせている、又お互い刺激し合って良い結果に繋がっていると。又今年の春初めて体育コースの卒業生を送り出しました。このコース設置も大きく影響している。

県北数校による菅平高原における合同合宿も十数年になります。技術の向上は勿論のこと、精神面においても苦しさには負けない又部員と競り合いながらも仲間を思う気持ち、そんな目標をかかげて頑張っております。

昨年度は男子四〇〇メートルで埼玉選手権大会において五位入賞、関東大会出場を果たしました。又県北でも、三段跳び、四〇〇メートルに一位となっております。今後はまず県北総合入賞を目標に頑張りたいと思います。

今後とも同窓会の皆様のご指導、ご援助の程宜しくお願いいたします。

バレー部

山口 由美子

創部当初、練習場は校庭にあった二面のコートを使用していたと聞く。悪天候での練習、雨が降ったあとのコート整備には顧問、部員共に苦心されたようです。その後、体育館に関わる部の御理解や運動顧問会の承認を得て、昭和五十年には体育館内で練習ができるようになりました。私をはじめ、現部員達はその頃の状況を知る事はなかなか難しいのですが、バレー部に在籍している以上、あらためて認識して現在の環境に感謝し練習に精進していきたいと思っています。

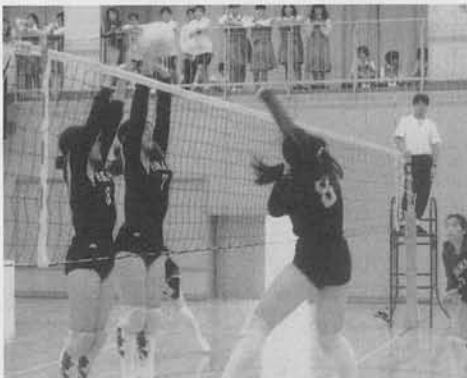
さて、現在バレーボール部ですが、三年生七名、二年生三名、一年生九名の計十九名で活動しています。部員数が少ないことが少々悩みの種ですが、部員の意識は高く、常に意欲を持ち練習に励んで

います。

また、バレーの技術だけに限らず、活動を通じて心身を培うこともバレー部の中心的課題です。

バレーの心はカバールの心とも言われるように、狭いコートの中で一つのボールに全精力を集中しつつ助け合ってプレーをし、苦しさの中で生まれる友情と協同の精神は何ものにもかえがたいものです。

これからもバレーボールを通じて生徒ひとりひとりの成長を期待しつつ、今後とも同窓会の皆様の御指導、御声援、御鞭撻の程よろしくお願い致します。



ソフトテニス部の現在

顧問 根岸 道夫

小野 茂
大場 重信

〈女子〉

個人 飯島ケ・塚本

野中・木村 出場

団体 ベスト十六

個人 田島・大沢

(北部三位)

原・金井

清水・山田 出場

団体

ベスト三二

(新人大会 ベスト一六)

従来「軟式テニス」と呼ばれていたものが「ソフトテニス」と名称変更になり、日本だけの競技から国際的なスポーツへの変身を遂げようとしている。ルールも前後衛の役割分担がはっきりしていた従来ものから「国際ルール」と呼ばれるものへ全面的に変わった。試合の展開としては、雁行陣での攻防が行われることには変わらないが、前衛にもサーブミスやストロークの力が要求されるようになった。

現在の顧問は三名ともソフトテニスの経験はなく、OB・OGや上級生の指導のもと、普段の練習に取り組んでいる。顧問としての生徒とのかかわり方については、日々迷うばかりではあるが、生徒の方は着実に成果を上げている。

七年度関東予選(県大会)

〈男子〉



文化部

多様な活動

三枝 茂夫

文化部には現在二十一の部と二つの同好会がある。

すなわち、映画を見、歌を歌って楽しく英語の勉強をしている英語部、調理を楽しみ文化祭でクッキー販売をしている家庭部、「児玉高校新聞」を発行している新聞部、県高校美術展と文化祭に作品を展示している美術部、県硬筆展・書き初め展、児玉町文化祭に作品を発表している書道部、気軽に音楽を聴きギターで楽しく歌っている音楽部、自然放射線の研究に取り組んでいる理化部、アマチュア無線と学校行事での放送準備・調整、昼休みの放送をしている放送部、春の県高校演劇祭と秋の高校演劇研究大会に毎年参加上演している演劇部、読書会や文学散歩をしている図書部、英文の文通で外国の友人と交流しているPFC部、岸田安子先生の指導でお点前と礼儀作法を積んでいる茶道部、坂本五百里先生の指導で四

季折々の花を活けている華道部、海水や淡水の生物を採集・飼育し、県高校科学展に出展している生物部、中庭の井戸水観測や県高校科学展、北部研究発表会に参加している地学部、パソコンでプログラミングをしている数学研究部、熊谷養護学校との交歓会と定期演奏会を毎年開催し、県北高校吹奏楽祭や郡市発表会に参加している吹奏楽部、ワープロ検定上級合格をめざして実習している商業研究部、県高校写真連盟展に作品参加している写真部、セル画・イ



ラスト画を製作、文化祭で展示発表している漫画研究部、車イス体験もしながら福祉作業所と交流したり、文化祭で研究発表している部落解放研究部、そして、文化祭でバンド演奏を披露する軽音楽同好会と映画の鑑賞と評論を行っている映画同好会。実に多様な活動が行われている。

文化部の活動は地味で、近年部員も減少して、やや低調になっているが、部創立二〇周年記念定期演奏会を昨秋盛大に行った吹奏楽部の熊谷養護学校との交歓会も今年十四年目を迎えたり、演劇部も毎年発表会に参加するなど、それぞれの部が頑張っている。

七〇周年記念行事を ふりかえって

元七〇周年実行委員長

堀口 勝司

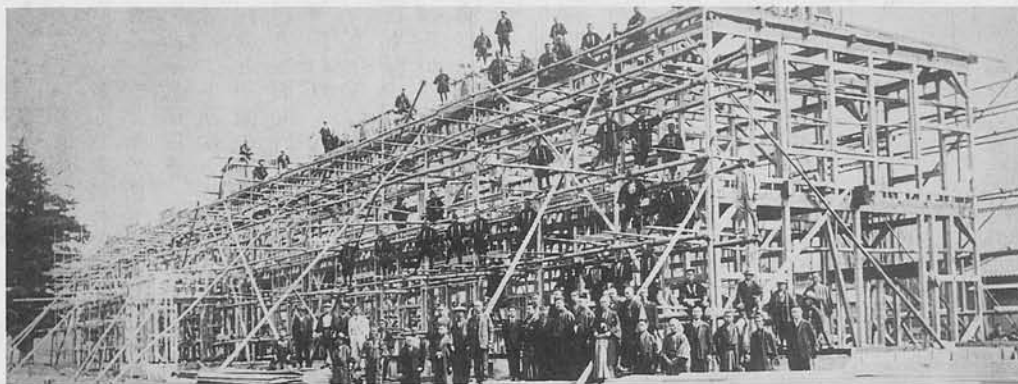
この度同窓会報「時の針」の発行にあたり、七〇周年式典委員長としての原稿依頼をいただき、有

難うございました。七〇周年式典も関係各位のご協力のもとに無事終了し、早くも一年半が経過いたしました。

私も学校役員生活を離れ改めて過去をふりかえってみますと、六人の校長さんのお付き合い（石黒、杉田、岩田、嶋田、関口）で私がPTA会長を引き受けた時には、杉田校長で、数年後に七〇周年事業を、との話しはできていました。杉田校長退職と同時に岩田校長が転入、その時より、七〇周年の準備は始まっており、先ず、正門の拡幅、体育館の改築、体育コースと推薦制の導入等を県に陳情をし、許可を頂き、早期着工早期完成を見、その間記念館を建てたなどの話しから学校、同窓会、PTA、後援会と協議を重ね、トレーニングセンターに決定し、平成二年に準備委員会を結成し、各方面に募金活動を実施し、平成五年五月に会館が竣工、そして平成五年十一月十一日に式典祝賀会の運びとなったわけですが、長かった準備から式典までその間ご協力下さいました関係者各位に改めて厚く御礼申し上げます。

終わりに同窓会の益々のご発展と、会報「時の針」の一層の飛躍をご祈念申し上げます。





旧体育館

本部役員と理事

先般の総会において、新役員
の選任が承認されましたので、ご紹
介いたします。

長い間、ご尽力をいただきまし
た前役員の皆様にごめまして御礼
申し上げます。

会長 松本 一夫
副会長 鈴木 要子

幹事 小林 俊雄、根岸 俊一
田島 勇八、瀬山 尚志
高木 清憲、立花 勲
石坂 清

監査役 石井 敏郎(会計兼務)
高橋 俊子、島田 てる
相談役 吉川 幸男、林 喜一

顧問 梅沢 仁
田島 敏包

各委員会の理事の紹介

名簿作成・広報委員会

会員名簿の作成、記念事業の計
画及び活動、事業に関する広報活
動等

委員長 鈴木 政弘
委員 根岸 義守、倉林 栄市

育英・母校ルネッサンス委員会

在学生の勉学、クラブ活動に対
する援助、母校の活性化に協力す
るための活動

委員長 岩上 高男
委員 岩片 満彦、新井 初枝
福島 慎治、本藤 正寿

秋間喜代子、脊山 知教
沖村 良子、川上 守之
阪本 和絵、遠藤 武美
石川 克彦、秋山 和広
角谷 清子、前川 章
長谷川志野夫

親睦・組織委員会

各種会合、旅行会等、会員の親
睦を深める活動及び会の円滑な運
営のため組織の整備を行う

委員長 吉田 豊彦
委員 萩原 泉、小島 満江

小林 修、田村 昭子
峰岸 栄、小倉 正貴
黒沢 洋子、芳野 勇
安斉 彰、田島 優子
高木 弘之、倉林 秀美
岩丸 彰男、細田 明
久保佐代子

